

事例 7 探究的な学習【整理・分析】 働く人々の関わりの中で、自己の生き方について考え続けた事例

- 学年 第6学年
- 探究課題 実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）
- 主な事例のポイント ※それぞれ実践例にて紹介
 - ①相手意識や目的意識をもち、インタビューの内容を決める「整理・分析」を行う。
 - ②目的に合った活動のアイデアを広げ、企画書を作成する「整理・分析」を行う。
 - ③目的に合った活動を条件に合うか検討・比較しながら選ぶ「整理・分析」を行う。

ICTを活用した主な学習場面

- ・調べたことや考えたことを整理する場面
- ・伝え合い、交流する場面

ICT活用の利点

- ①探究の過程で収集した情報を、学びの記録として蓄積することができる。
- ②情報収集の際に、多様な情報を容易に集めることができる。
- ③同時に編集ができる機能により、児童同士の協働的な学びが可能になる。

1 単元名 夢の相談室

2 単元目標

仕事について調べたり、働く人と関わったりする活動を通して、社会には、人々を支える多くの仕事があることや、働く上でそれぞれの考え方や生き方があることを理解し、自分の将来に向けての課題を自ら設定し、課題の解決に向けて試行錯誤するとともに、自己の生き方について考えることができるようにする。

3 児童の実態 (略)

4 教材について

本単元は、様々な職業の方の考えや生き方に触れることにより、現在、自分自身がもっている職業観が広がり、将来に希望をもつことができるようになることをねらいとして設定した。この単元を通して、働くことは大変だが、誰かのために役立つことや、社会に参画することの意義に気付くようにしたい。キャリア教育の視点から考えると、職業や生き方についての話を聞くことで、自己の将来に対する進路計画を立て、実現に向けて前向きに努力していく態度を養う一連の学習は、職業的発達にかかわる諸能力を育成することができると思う。また、これらの一連の学習は、中学校でのキャリア教育の一環である職業体験学習につながる学習であると思う。

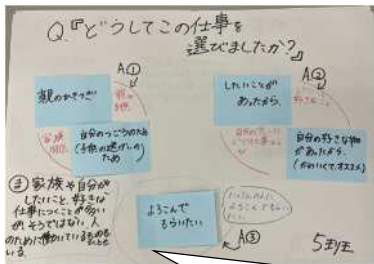
さらに、学びの質を高める学習支援の工夫として、個人やグループの学びの後には意見交流の機会を設定し、様々なものの見方や考え方に触れ、児童一人一人の考えが深められるようにしていきたい。その際には、児童同士の学び合いがより深まるよう、情報を整理・分析する時間を十分に確保する。また、児童の「やってみたい」という思いや願いを大切に、主体的な体験や活動が展開できるようにしていきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①社会には、人々を支える多くの仕事があることや、働く上でそれぞれの考え方や生き方があることを理解している。 ②調査活動を、目的や対象に応じた適切な方法で実施している。 ③仕事や働くことへの考え方の理解は、働く人と関わりながら探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①自分の将来に向けての課題を自ら設定し、解決に向けて見通しをもっている。 ②収集した多様な情報を課題解決に向けて、選択している。 ③働く人へのインタビュー等の情報を観点に合わせて整理している。 ④相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	①課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③探究的な学習をもとに、多様な職業観を理解し、自己の生き方について考えている。

6 単元の指導計画と評価計画（40 時間扱い）

探究の過程	○学習活動（時間） ・ 児童の思考	・ 指導上の留意点 ○ 評価 （評価方法）
	○オリエンテーション(1) ・ 働くことには不安があるな。 ・ 将来の夢を叶えるために頑張りたい。 ・ 今からどんなことをしていればよいのだろう。	・ 活動を始める前に、何のためにこの学習を行うのか、単元の最後にはどうなりたいか、学習の目的や目標を話し合うようにする。
課題の設定	課題① 身の回りにはどんな仕事の人がいるのだろう。 ○職業や将来の夢について今までの経験から知っていることについて話し合う。(1) ・ プロ野球選手になりたい。 ・ トリマーになりたい。 ・ いつもきれいにしてくれる美容師さんに憧れているよ。 ・ YouTuber になって稼ぎたいけれど、どうやったらなれるのか分からない。 ○単元の目標や単元名を決定する。(1) ・ 知らないことがたくさんあるから、調べていきたいな。 ・ 将来の夢を見つけたい。 ・ 働くことのイメージが少しでもよくなるといいな。	・ 既習の知識や経験について話し合うことで、将来、働くことや職業への関心を高める。 ・ ウェビングマップを使い、働くことへのイメージを広げる。 ・ 現時点での働くことに対するイメージをワークシートに記入しておくことで、単元後の変容が分かるようにする。 ・ 単元が終わったときに、どんな自分になっていたか話し合い、単元のゴールのイメージがもてるようにする。 ○ 思・判・表① （発言・記述） 単元終了時になりたい自分の姿を共有
整理分析 情報の収集	○インタビューの計画を立てる。(2) ・ どんなことを聞こうかな。 ・ 何を聞けば、知りたいことが分かるかな。 ○身の回りの仕事について調べる。(3) ・ お家の人にインタビューしてみたらどうかな。 ・ 先生に話を聞いてみようよ。 ・ 駅前で街頭インタビューをしたらたくさんの人に仕事のことが聞けそうだよ。 駅前での街頭インタビュー （幼稚園の先生にインタビュー）	・ 知りたいことを知るための質問を考える。 ・ 実際に働いている人にインタビューをすることで、より関心が高まるようにする。 ・ 身の回りには、様々な職業の人がいることに気付くことができるようにする。 事例のポイント① 実践例 1 を参照 興味のある職業の方へインタビューをするためのアポイントメント（ペットショップに電話をかける。） ○ 知・技② （発言・行動・振り返り） ○ 思・判・表② （発言・振り返り）

整理 分析	○調べた情報を分類する。(3) ・パートという、決められた時間で働く人もいることが分かったよ。 ・お家の人の仕事について初めて知ったよ。 ・私たちのために、自分たちが知らないところで働いている人もいるんだな。 ・職業は同じでも、仕事に就いたきっかけは人それぞれだね。 ・もっと色々な人に話を聞いてみたいな。  インタビュー項目ごとに共通点を見つける。 (KJ法：共通点をまとめ、情報を分類する時に便利なツール)	・質問項目や、仕事の種類等の観点を、比較しやすいようにする。 ・インタビューや街頭調査の結果について伝え合い、世の中には様々な職業があることや、同じ仕事でも職業観が違うことに気付くようにする。 ・様々な方々へのインタビューをI C T端末の資料箱へ入れておくことで、今までの情報を見返し、インタビュー項目ごとに共通点や相違点を見つけることができるようにする。 I C T活用の利点① 探究の過程で収集した情報を、学びの記録として蓄積し、いつでも見返すことができるようにした。 ・グループごとに、気付いたことをまとめ、報告の準備を進めるようにする。 ○思・判・表③ (発言・ワークシート)
まとめ 表現	○活動を振り返る。(3) ・絵に関わる仕事の人はいないのかな。 ・もっといろいろな仕事の人に話を聞きたいな。 ・スポーツに関わる仕事をもっと知りたいな。	・小単元1の活動で「分かったこと」、「まだ分からないこと」を出し合い、小単元2への手がかりとする。 ・活動を振り返ることによって、もっと調べたいという新たな課題設定につながるようにする。 ○態② (発言・振り返り)
課題の 設定	課題② 自分の夢を見つけ、仕事を選ぶためにはどうすればよいかな。 ○小単元2の活動計画を立てる。(2) ・仕事を選ぶためには、どんな仕事があるかもっと知らなきゃいけないよね。 ・まだどうやって仕事を選べばよいのか分からないよ。	・小単元1で振り返った「まだ分からないこと」に着目させる。 ・仕事の種類やどんな人に向いている仕事なのか等、単元の目標や自分の将来につなげるために必要なことを考えられるよう声かけをする。 ○思・判・表① (発言・振り返り)
情報の 収集	○仕事の種類についてインターネットや本を使って調べる。(4) ・インタビューで出会った人以外にもたくさんの仕事があるんだな。 ・スポーツに関わる仕事では、選手だけでなく、健康を管理する人や、教える人等、様々な仕事に関わり合っているんだな。	・調べたことをカードに書き出し、関わり合っている仕事やつながっている仕事に注目させる。 ・自分の興味があるものや、詳しく調べたいものは何か考えながら活動できるようにする。 ○態① (発言・振り返り)
整理 分析	○カードを出し合い、仕事の種類について整理する。(2) ・スポーツに関わる仕事には、選手だけでなく、教える人や支える人など、関連する仕事があるんだね。	・似ている仕事や関わっている仕事ごとにカードにまとめながら整理するようにする。 ・仕事の種類だけでなく、分からない仕事については質問し合い、仕事への理解を深めるようにする。

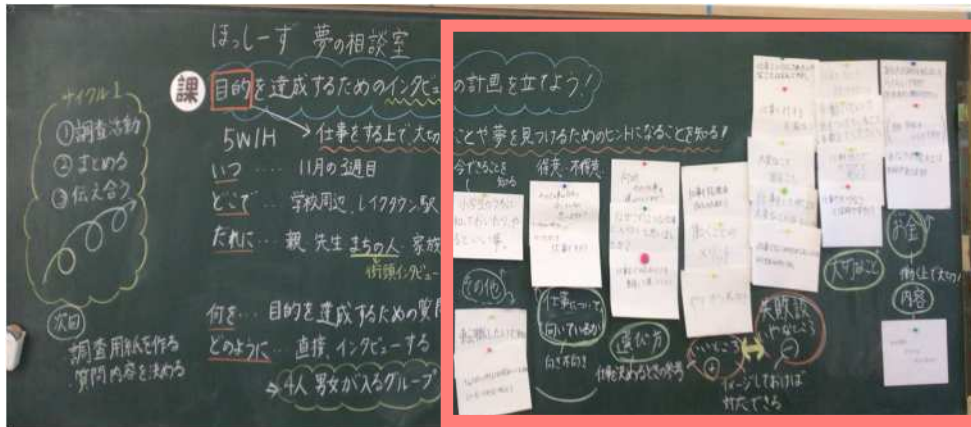
	・分野ごとに分けてグループを作ればもっとくわしく調べられるんじゃないかな。	・ICT端末を活用して、個人で調べた職業カードを共有できるようにする。 ○思・判・表②（発言・振り返り） ICT活用の利点② ICT端末を活用して、個人が調べた情報を共有し、多様な情報を得ることができるようにした。
まとめ 表現	○お仕事マップを作る。(3) ・自分が知らない仕事がたくさんあったよ。 ・自分にはどんな仕事に向いているのだろう。	・仕事の分野ごとに作成したお仕事マップをもとに、今後の活動の見通しがもてるようにする。 ・単元の目標や自分の将来につなげるために必要なことを考えるようにする。 ○態②（発言・振り返り・成果物）
課題の 設定	課題③ 目標を達成するためには、どんな活動をしたらいいだろう。 ○目標を達成するための方法を考える。(2) ・自分たちが担当する分野をもっと調べないといけないね。 ・調べたことを伝え合ったら、たくさんの仕事について知ることができるんじゃないかな。 ・調べたことを一つの本にしたらいつでも見られるよ。 ・仕事を少し体験してもらうコーナーを作って教えるのはどうかな。 ○目標を達成するための方法を検討する。(1) ・体験した方が、自分に合っているかを確かめることができるんじゃないかな。 ・動画やパンフレットなら、いつでも見返すことができるよ。	・単元の目標に立ち返り、自分たちがなりたい姿を達成できる方法を検討する。 ・各グループで考えた企画を、1枚の企画書（企画のきっかけ、内容、メリット等）にまとめ、検討する材料にする。 ・分からない活動があれば、質問をして、具体的な活動のイメージがもてるようにする。 事例のポイント② 実践例2を参照 編 P188 指導計画作成の留意事項(2) ・マトリックスを使い、目的に合った方法や活動が何かを多様な視点で比較できるようにする。 ・企画のメリットやデメリットに目を向け、目的に合った企画を選べるようにする。 ○思・判・表④（発言・振り返り） 事例のポイント③ 実践例3を参照 編 P188 指導計画作成の留意事項(3)
情報の 収集	○それぞれのグループに分かれて文化祭の計画を立てる。(3) ・分かりやすく伝えるにはどうすればいいだろう。 ・もっとインタビューしないと、みんなに伝えられないね。 ・私たちもその仕事を体験させてもらうことはできないかな。	・文化祭を開くための準備の中で、必要であれば、職業の体験をインタビューした方や専門家に依頼するよう助言する。 ・文化祭での目的を常に念頭に置きながら準備できるよう声かけをする。 ○態①（発言・振り返り）
整理 分析	○それぞれのグループに分かれて文化祭の準備をする。(5) ・すべてを伝えることはできないから、必要な情報を選ばないといけないね。	・文化祭に向けて、必要なものや、準備する期限等、見通しをもって計画を立てられるようにする。 ・調べるために必要なインタビュー等の準備は、児童中心に行うようにする。

	・文化祭がみんなの役に立つものになっているか、アドバイスをもらいたいね。 自然コース ～仕事の種類～ 《森林インストラクター》 ～仕事内容～ 自然とのつきあいを教える 樹木や草花、動物の生態に違い、森に遊びに来る人との橋渡しをする。 自然の中で行われるイベント、キャンプ、シンポジウムなどで活躍する。現状ではボランティアとしてやる人たちが多い。 ～向いている人～ 自然や動物、アウトドアが好きで人に向いている。また、お客さんの興味をひくガイドをするために、人に伝えるプレゼン力が必要。 《環境保全エンジニア》 ～仕事内容～ 公害防止や環境安全に関わる。メーカーなどで光害を防ぐ機器などの設計、製作、メンテナンスを担当する仕事と、大気汚染、騒音、水質汚濁（すいじつおたく）などの数値を計測したり、分析する仕事に大得意。 ～向いている人～ 自然環境の守り手として、新技術を生み出す発想力と技術を持っている人に向いている。色々な技術について学んでおく必要がある。
--	---

7 実践例

【実践例1】相手意識や目的意識をもち、インタビューの内容を決める「整理・分析」

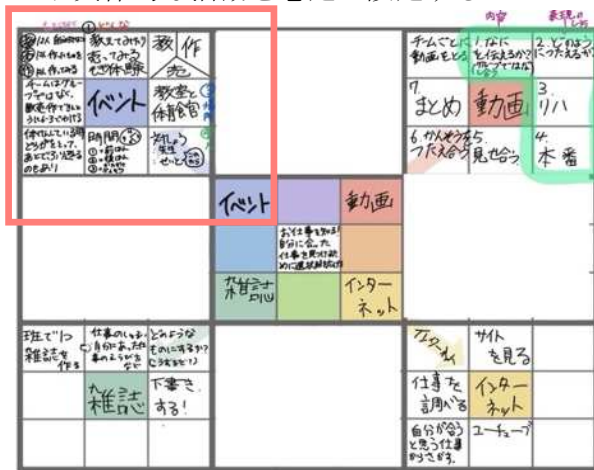
小単元1で、「仕事をする上で大切なことを知り、夢を見つけるためのヒントを得る。」というインタビューの目的を確認した後、目標を達成するためにはどのような質問をすればよいのか考えた。まず、グループで聞きたい質問を出し合い、似ている質問をKJ法で分類しながら整理していった。その後、どの質問を優先的にしなければいけないか、順序を考えた。思考ツールを使って整理したことにより、質問の意図が明確になった。



KJ 法→情報が関連するものをつなぎ合わせて整理し、統合するツール（関係づける、抽象化する）

【実践例 2】目的に合った活動のアイデアを広げ、企画書を作成する「整理・分析」

小単元 3 では、たくさんの仕事を知り、選択肢を広げ、自分に合った仕事を見つけるという目的を達成するためにはどのような活動をすればよいかについて、児童自らが企画を考えた。マンダラチャートで考えを広げ、その後、各班が①企画名②企画を思いついたきっかけ③活動内容④企画のポイントやメリットについて 1 枚の企画書にまとめた。マンダラチャートを使うことで、より具体的な活動を想定・設定することができた。



すまぐ笑顔でおもてなし！
ほっし〜ず祭

企画のきっかけ 課題

① 総合の新たな課題で自分にあったものがわからないやもっと選択肢を広げたいという課題が出てきて、これを解決するにはイベントを開き実際に体験してみたいという事が最適だった

② 私たち 6 年 3 組はクラス単位でも悩み事があります。みんなの協調性を高めたり、男女関係をよくなりなど、これもまとめてイベントで一人一人協力すれば解決できると考えました

6 年 3 組のそれぞれの職業のチームに分かれてそれぞれの職業に合った売り方や教え方。作る体験もできるかもしれません！ただのお祭りではなくプチ職業体験ができるかも！

〈例〉
ボールで火を消す消防士活動
犯人の隠れ場所を見つける 1 日警察体験

「なること」
先生方や他学年に協力してもらう代わりにとても笑顔なおもてなしを考えています。
他の学年の人例えば 6 年生だったらクラスごとの考え方やそれぞれのクラスの総合百健のヒントになるかもしれませんし、5 年生や下学年にもしてもらえれば楽しんでもらえるし先生方にはぜひ見聞として先生以外の職業も体験してみてください！

【詳細】
場所：6 年 3 組 算数ルーム・体育館
対象：来れる先生方・他学年
どのようにして内容と似ていますが、それぞれ相談室の社員が自分の好きな事や趣味をもとに合う職業を選び、それぞれのゲームがお店を開き笑顔なおもてなしをします。

マンダラチャート→アイデアの発想や思考の整理等を図ることができるツール（具体化する）

【実践例 3】目的に合った活動を条件に合うか検討・比較しながら選ぶ「整理・分析」

「たくさんの仕事を知り、選択肢を広げ、自分に合った仕事を見つけるという目的を達成するには、どのような活動をすればよいのだろう」ということについて話し合った。その際、マトリックスを使い、①たくさんの仕事を知ることができるか。②自分に合った仕事に分かるか。③実現可能か。④オリジナルか。の 4 つの条件を児童が決め、◎、○、△で評価し、比較する活動を行った。また、国語科との関連を図り、目的と条件に合わせたものを選ぶ話し合いの仕方を活かせるよう、意図的に授業を構成した。

①③⑤が内容によって時間がかかる → 組み合せる？
②④⑥は実際に体験が難しい

マトリックスの活動目的 たくさん仕事を知り、選択肢を広げ、自分に合った仕事を見つける。

(4) 班	たくさん仕事を知ることができるか	自分に合った仕事に分かるか	実現可能	オリジナル
①プレゼンブース	◎	◎	○	◎
②お仕事情報ノート	◎	○	◎	△
③チーム対抗文化祭 (仕事に関するゲーム)	◎	◎	○	◎
④6 年総員大相談会	◎	△	◎	○
⑤ほっし〜ず祭 (プチ職業体験)	○	○	◎	◎
⑥お仕事説明会	○	◎	◎	○
⑦お仕事/イベント	○	◎	◎	△

何を付けた？
準備に時間がかかる！
①③⑤はいいものを合体させる！

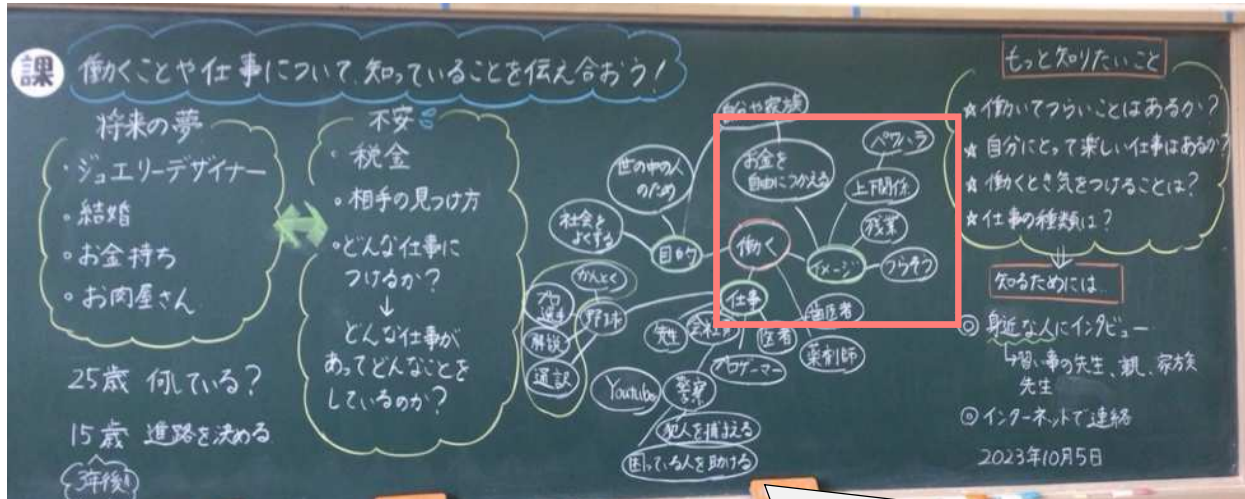
「自分に合った仕事に分かるか」という条件について検討する際、7 つの企画の中には、体験を伴う企画と、伴わない企画に分かれるということに気付いていた。

その後、体験を伴う企画と伴わない企画の違いについて考え、自分に合った仕事を見つけるという文化祭の目的に立ち返り、体験のある文化祭を行うことがよいという結論を出していた。

マトリックス→2 つ以上の観点で分類整理し、多面的に物事をみるときに使うツール（多面的・多角的に見る）

【児童の変容】

単元スタート時には、働くことについてマイナスなイメージをもつ児童が多かったため、単元の最初と最後に今の時点での将来の夢と働くことについての考え（働くことへのイメージや将来の理想）を書き、変容が分かるようにした。単元がスタートした時には、働くならなるべく楽をしたいと考えていたA児は、小単元1で、パティシエの方に話を伺い、朝早くからお客さんに喜んでもらうために苦勞を厭わない姿に感動していた。その後、みんなが仕事を知るためのイベントを企画して運営した経験に手応えを感じ、「お客さんを笑顔にしたい。」という願いをもつようになった。



働くことについてのウェビングマップ

→働くことのイメージには、マイナスなイメージが多いことが分かる。

A児の考え（単元開始時）

☆ 2023年 10月 5日時点での将来の夢

ホワイト企業で仕事

理由 働くならできるくらい楽なほうがいいから

☆働くことについての考え（働くことへのイメージや将来の理想）

いつにもいい仕事がある。そのミスも許されない。イメージ毎日朝〜夜まで働いて。苦しかったり。たたり。あまり給料がもたらさない。アタリ企業にいくとまたくもれない。ホワイト企業か。それか。今は特に夢は。そこ。ホワイトな会社で。イイ。かんじに。くせ。らしい。仕事。あるし。大変。たり。働かない。という。から。働。く。いろいろ。ストレス。か。や。ば。す。最初。の。ほう。は。め。ろ。め。ろ。な。さ。

単元開始時の将来の夢と働くことについての考え

→責任があつてミスが許されない、残業があつて辛い、働かないといけないから働くなど、マイナスなイメージが目立つ。

A児の考え（単元終了時）

☆ 2024年 3月 15日時点での将来の夢

イベント会社で仕事したい!!

理由 日、土、日文化祭でイベントを作るのが楽しかったから

☆働くことについての考え（働くことへのイメージや将来の理想）

イメージ
・大変、辛い、やりがいもある、楽しい、ストレス、やりがい、仕事、向いている仕事ではたらけたら毎日
将来の理想
私は将来イベント会社で働いて、たくさんのイベントをして、お客さんをもてなしたい。そして、母が来てくれた、とてもイベントをつくりたい!!

単元終了時の将来の夢と働くことについての考え

→やりたい仕事ができたら毎日が充実する、辛いがやりがいもあるなど、プラスの意見が多くなっている。また、学習の中で経験したことから、自分が楽しいと思えることに会うことができたことが分かる。

パティシエは、朝8:30〜夜22:00まで働く時もあると聞いて、とても驚いたけれど、それだけ時間をかけて丁寧に作るからあんなに美味しいケーキが作れるのだと思いました。

パティシエへのインタビュー後の振り返り

→仕事にやりがいをもって働く方との出会いによって、考えが深まったことが分かる。